

令和7年1月21日
第36号
文責 田中 宏和

先週の金曜の朝の校庭は賑やか、それでいて穏やかでした。ポカポカ陽気のお天気も相まって、子どもたちが白い息を弾ませて、楽しそうな声を上げながら活動していました。一校時の運動場には、一年生たちが思い思いの図柄を描いた自作の凧を持って並んでいました。今から一人ずつ凧揚げをするのです。上の写真が最初の一人です。児童がダーツと走るとフワーと上がり、少しずつ糸も繰り出されて（上手！）高く上がりました。もともと年始に男児の出生を祝う儀式だった凧揚げですが、子どもの願い事を天まで届けるという意味もあるようです。その後も、それぞれの凧が上がりました。どんな願いを天に届けたのでしょうか。

同じ頃、四年生は体育の授業でした。四年一組は、上り棒、ジャンプボード、タイヤ跳び、鉄棒等の遊具を活用して、体力作りに励んでいました。サーキットトレーニングです。子どもたちが一斉に棒を登り出す様子を遠くから見、芥川龍之介の『蜘蛛の糸』を連想しましたが、粗筋からして少し不謹慎だと反省しました。一方、その反対側で四年四組はフラッグフットボールをしていました。フラッグフットボールがどんな競技かご存じでしょうか。恥ずかししながら私は知りませんでした。これは学習指導要領にも掲載され、アメフトやラグビーの要素を取り入れながら安全性をより高めた競技です。



雰囲気は似ています

作戦会議



お話では糸は1本ですが

四校時には五年生も取り組んでいましたので見てみたら、班で綿密に立てた作戦に従って動いていました。この作戦会議（写真上段左）が学級づくりに非常に効果的であり、且つやるべき事が単純明快なので運動の苦手な児童も取り組みやすいようでした。

一方、昨日はテンションの上がらない、週はじめ。朝の様子は挨拶の声もまばらで、子どもたちの目はどことなくうつろです。金曜の朝とまるっきり違うように感じるの、校門で出迎えている私の気持ちの影響だけではないはずです。そんな中に企画委員会の子どもたちがあいさつ運動に取り組みました。いつもカードやシールを渡すなどの何らかの+アルファがあるのですが、今回は新年を意識してか、おみくじでした。「大吉」「中吉」「小吉」「吉」の四種類（順番は諸説あり）があり、さすがに凶は入れなかったと言っていました。早速引いてみると、「中吉」……。まずまずといったところででしょうか。しかし、その後見ていると「大吉」はなかなか出ません。「大吉」が出れば、「ワー！大吉ですー！」と本人も周りも湧くので気分が上がるようですが、「大吉」以外だとほとんど微妙な顔になります。「これっていいんですよね？」と「中吉」以下で問われると、「なかなかいいよ！」「まずまずだね！」「と、テンション高くも微妙な言葉を投げかける私。半分ぐらいいや半分以上「大吉」でいいと思うのは私だけでしょうか。

とはいえ、朝遊びや昼休みの様子は週末も週はじめも関係なく、なんだかんだで元気な西南小っ子なのです。



大吉だと本当にうれしい